第８回　　中山間地域振興特別委員会記録

日時：令和２年４月15日(水)
10時00分　～ 11時 27分
場所：第　４　委　員　会　室

【出席者】　田畑委員長　布施副委員長
川上委員　柳楽委員　野藤委員　上野委員　飛野委員　永見委員
【議長団】
【委員外議員】
【執行部】
【事務局】　古森局長　大下書記

議　題
1　「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」について
（提言に向けて）

【参考】
テーマ３「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」に係る課題
⑴　農業・林業の担い手・事業承継者の確保
⑵　畦畔の草刈の方策
⑶　有害鳥獣被害（イノシシ、クマ、アライグマ等）
⑷　農林道の危険木・支障木の撤去等
⑸　耕作放棄地対策
⑹　山林の不在地主の増加
⑺　集落営農の再編（組織運営や共同購入した機械の維持管理の限界）

2　その他

○次回開催　（別途調整）　　月　　日（　）　　時　　分　　第４委員会室

【議事の経過】　　（開　議　10 時　00 分）

田畑委員長　ただいまより令和２年４月15日の中山間地域振興特別委員会を開催する。出席委員は８名全員で定足数に達している。

古森局長　４月１日付け人事異動があった関係で、この委員会の副務を下間から大下に変わった。よろしくお願いする。

田畑委員長　さっそく議題に入る。

1.「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」について

田畑委員長　前回の確認事項があったので、局長から説明してもらう。

古森局長　（　以下、資料をもとに説明　）

田畑委員長　これについて質問は省きたい、次の議題に入ってよろしいか。

飛野委員　先月末に都市計画審議会があった。その説明の中に、（動物の）焼却場のことが出た。新たに焼却炉を整備するという項目の中に、動物系個体不燃物処理もする炉を設けるという話があった。いままでイノシシの焼却等についてはサイズの問題があったが、新しく整備する炉ならドラム缶サイズでもＯＫとのこと。猟師の直接の持ち込みもＯＫと確認した。

整備は、令和２年の６月から３年の12月にかけて行われるのだが、こういうことがらも何かの方向性を持った中での、焼却炉性能アップだと私は思っている。今後提言するにあたっても、こういったことを頭に置いてやっていただけたらと思う。

布施副委員長　これから設けるのか。

飛野委員　はい、令和２年６月から３年12月まで工事をする。改修。

野藤委員　生湯町の浄化センターの上の、処理場の施設改修をする。

飛野委員　改修をして、そこにそういう能力を持った焼却炉を据える。

飛野委員　ちなみに焼却単価については聞き漏らした。これは調査する必要があろうかと思う。

田畑委員長　浜田浄化センターを建設するのは浜田市がやるが金を出せということか。

野藤委員　都市計画審議会の中で計画を審議会にかけなければいけないということであっただけで、能力は大きく変わる。能力を大きくするのは需要があるからだろうということで、イノシシ等動物の焼却を当てにしているのではないかという意見。

古森局長　民間建設、民間経営か。

野藤委員　そう。単価は分からないがそれに対する補助金が出れば、ペイするのではないかということだと思う。

飛野委員　そのとおり。

田畑委員長　以上でいいか。では議題に入りたい。

前回までに農林地の維持管理対策、耕作放棄地、鳥獣被害防止対策にかかる課題について７項目あったが、2、3、4番目の項目が終わってい

るので、今日は残っている項目について、提言とするポイントを決めていきたいと思う。(1) からで良いか。

（　「はい」という声あり　）

では（1）の、農業林業の担い手、事業承継者の確保について、委員のご意見をうかがいたい。柳楽委員から。

柳楽委員　前回までにまとめていただいた分には、研修生制度の内容の検証と書かせていただいた。農業研修生制度は他自治体でもされているが、出雲は成功しているほうかと思う。それらと比較してどういう違いがあるのかも、見ていく必要があると思う。研修生が農業についていろいろ研修を受けられても、儲かるところがないと農業に携わることは難しい。どういった農業が儲かる可能性があるのかは調べていかないといけない。

田畑委員長　農業研修生の検証ということで、他市との比較を。もう１点は、儲かる農業とは、ということで良いか。

柳楽委員　はい。

永見委員　前回、これに対する意見をいろいろ書かせていただいているのだが。

田畑委員長　一覧表で出ているが、このままで良いと言われればそれでも良い。

永見委員　前回もこの一覧表の中で出させていただいた中に、採算性がなかなか取れないというのがある。農業に取り組んでおられる大半は水稲で、水稲ではなかなか採算性が合わない。後継者についても、採算性がなければ農業に興味を持ってもらえない。柳楽委員が言われたように、儲かる農業へ重点を置いたほうが。その辺りも検討を重ねたほうが良い。

上野委員　田舎で子育てしたい若者が結構いる。広島みたいな近くをターゲットにして、農業の楽しみを教え、新規就農相談会などでこの地域の農業を積極的にＰＲしていく。田舎は高齢化しているため、地元の方といってもなかなか難しいので、広島などをターゲットにして。やはり金にならなければ子育ても難しいので、半分農業しながら広島へ働きに出るといったことをしながら、地域に溶け込んでいただきたいと思う。そうする中で田舎に移り住む方はかなり増えるのではないか。この前も柳楽委員らと一緒に和歌山県の広川町に視察に行ったが、361 人のうち 167 人くらいが、まち中から子供連れで移住してこられた。産業も何もないところで溶け込んで、今はその人らが引っ張っている。そういうのを視察して感動した。そういった仕組みをしないと、なかなか地元高齢者に維持と言っても難しい気がする。

田畑委員長　新規農業者に対して、楽しみを教えてあげる、業務含めて。

上野委員　一番産業を興しやすい場所だと思う。今までは僕らのような田舎で育ったものがいろいろ考えていたが、都会の人が来たら新しい発見があるかもしれない。そういうのを求めたほうが良い。

田畑委員長　半農半Ｘ、広島をターゲットにして施策を打ったらどうかと。移住を進めるための仕組みづくりも大事であるということ。

布施副委員長　私も上野委員と似ている部分がある。半農半Ｘ、楽しみながら農業が

できる、また、農業を主体としながらそれ以外のビジネスを作るということで。半農の部分は規模があるのだが、いまは新型コロナウイルスの影響で、テレビをつけると自宅での運動や楽しみ方、子供はゲームをやっているが。先日ＢＳでやっていたが、外での活動、密集しないということで、農業に従事する若い夫婦が、こういう状態で自宅待機になって農業を始めたという話があった。儲かれば誰もやるのだが、儲からないから担い手や農業の拡大ができないという現状がある。儲からないにしても、趣味ではできないが本業を何に置くのかによってシステムづくりをすれば、新しい発想もあるかもしれないが、マッチングすれば耕作放棄地での農業の担い手が少しずつ広がっていくのではないかと思う。

半Ｘの部分だが、林業も難しい部分があるがそういったものを合わせるとか。あるところでは農業をしながら漁業もするという、半農半漁でやっているところもある。そのように、魅力を作って、片方だけでなくお互いの良い所をビジネスとして取り上げて生計を立てるというマッチング作りの環境を、まだまだ進めていかないといけない。

林業については山林の不在地主の問題とよく似ているのだが、自分が持っている林業所有者は、木を出して赤字が出るようなら出さないという感じだが、赤字が出ないように自伐型林業を、どうしても作業道や運搬車にお金がかかるので、国からの補助も出ているのでそういったものを整備して、個人林家を支援することによって林業の担い手もできるのではないかと思っている。

人材育成について、林業についてはふるさと応援隊の活用をお願いしたい。

田畑委員長　マッチングするための環境整備がポイントなのかと思う。例えば農業を主体として漁業との絡み。人材育成も含めた環境整備が重要だと。そういった中で楽しみながら農業ができるのが一番良いのではないか、ということになるのだろうと思う。

布施副委員長　今の農家ではなく、小さい部分をどうしたら良いか、ひとつひとつを拡げることによって農業の新しい取組ができるのではないかと思う。大きな部分をどうにかしようと思えば、集落営農をもう少しやったりする必要があるが、それは皆がもうずっと取組んでいることで、なかなか次の段階に入らず難しいと思っている。やらねばいけないのだが、個人が農業に目を向けていただくためには、コロナ対策ではないがいろんなところで、テレワークができない人は収入が減る、家庭にずっといるわけにもいかない。三密を避けるためには何をするかと言えば、外へ出て野菜を作ったり、農業に従事している人が増えてきているという情報があった。そういうことをいま考えるべきではないかと思う。

飛野委員　担い手の問題が一番大きい課題だと思う。私の地元では若者の農業離れがぼちぼち始まった。人・農地プランをするにあたっても今後５年間でやっとこさ、と受け止めている。東京一極集中はもう止まらない。コ

ロナによって実家に帰省する人、疎開する人、現実に増えてきている。帰省された方にそのまま住んでいただきたいと、喉から手が出るほど思っている。結局どうするかと言えば、ふるさと農林業の魅力づくり、職業の斡旋、関係人口、この部分になるのではと思う。実際どう対処すべきか、糸口さえ見つからない。市としても、農林業支援センターもある、農業委員会も補強されている。地域に出向いて指導いただきたい。

田畑委員長　人・農地プランも見直しの時期に来ているが、これは５年間継続しなければいけない。支援を受けるからには５年間は無理してでも維持しなければいけない。地域によっては高齢化の問題も含めて難しい時期に来ている。担い手確保ということで、関係人口を増やしていくためのテーマはいろいろあろうかと思うが、こういったものを根本的に見直していかないと、中山間地域における農林業の問題は大変厳しいものになるだろう。

野藤委員　前回シートに記入した内容だが、中山間で儲かる農業に拘り過ぎたかと思っている。皆の意見を聞くにつけ。自分が海に携わっているのは楽しいから。生き甲斐のような形が必要なのではないかと思っている。

国のパンフレットの９ページの下段、営農ボランティアというのがある。この仕組みが人を呼び寄せるのではと思う。ある番組にＤＡＳＨ村というコーナーがあるが、それを思い出した。ボランティアではなくいくらかの収入になるとか、農業が忙しい時期の人手を募るための情報発信をして、仕組みづくりをして地域の方と交流できる環境を作っていけば、地域の魅力も伝えられて、興味を持ってもらえるのかなと思ったりしている。

半農半Ｘという形で農業をアルバイト的にやれて、少なからず収入になるなら、休みを利用して行かれるのではないかと思う。リアルタイムに情報発信できる仕組みを作っておけば、いくらか中山間地域に目を向ける方がおられ、それが先々に定住に結び付いたり、地域の良さを知って移住を考えるような感覚になるのかなと思う。

儲かるというのを前面に押し出し過ぎると、代表がとか機械がとなるので、その辺の感覚を切り替えたほうが良いのかな、維持することを主眼にしたほうが良いのかなと思っている。

田畑委員長　確かに大規模化にするとそれなりの費用がかかる。どうやって中山間地域の農地に参入して、どうやって維持していくかを考える。利益の追求もしなければならない部分はあろうかと思うが、追求しすぎると前に進まなくなる。地域間交流においてバイト感覚で来ていただける人を探すのも重要だろうと。

川上委員　耕作放棄地に何もかも作ろうという考えを持たないほうが良い。放棄する所と作る所を明確に区分けして、対策を練ったほうが良い。作る人がいなくなるのは事実なので、そこからスタートしたほうが良い。

田畑委員長　耕作条件不利地はもう放棄すると。

川上委員　はい。そうしないといつまでも解決しない。

布施副委員長　いまは（1）についての話だが。

川上委員　これは前に言ったとおり、担い手の関係。

布施副委員長　１つでは儲からないから、企業など。

川上委員　主なものを使用するためには企業が担おうということで、半農半Ｘ。

布施副委員長　言葉は先行しているが実際はできてない。

川上委員　企業誘致とあるが、誘致ができないのが事実なので。そのために方策を早く考えないといけない。

布施副委員長　後で自由討議を少し良いだろうか。

田畑委員長　川上委員が言われたのは、半農半Ｘが一番良いのだろうが、そこには農林業に対する企業進出が一番望ましいが、なかなか難しい面があるということだろう。そういうことで良いか。

川上委員　はい。

田畑委員長　農業、林業、担い手、事業承継者の確保について、委員の皆からひととおり意見をいただいた。これから自由討議で意見を言い、まとめていきたいのでよろしくお願いする。

布施副委員長　委員長の意見は言わなくて良いのか。

田畑委員長　個人的な感覚でいくと、先ほど委員の皆が言われていた儲かる農業でないと担い手も来ないし、ボランティアも集まってくれないということなので。水稲だけではもう儲からない仕組みが現状なので、これからは水稲をしながらハウス栽培経営にある程度変えていかないと、そうすることで儲かれば新規就農者もいくらか来る。そういったことを予算化していくべきではないかと思う。

以前、北広島町に行った際、家族４人で25町歩のコメ作りをされている。苗も自分で作る。田植えが終わった時点ですぐトマト栽培に切り替えて、米は少し儲かっている、トマトはかなり良い利益が出るようだった。バックに広島産業圏域があるので、トマトはそこそこ儲かると言われていた。やはり相当大きいハウスを持っておられるので、それだけされれば仕事も相当されているので、儲かる農業というのはこういうことだろう。水稲は規模を大きくしても、１人５町歩以上やらないと儲からないという話は、あちこちでよく聞くのだが、そういった面では水稲とハウス栽培経営を併用していかないとなかなか難しいのではないかと。それに対する就農者支援については、浜田市も支援していくべきだと私は思う。

では、ここからは自由討議として、各委員の発言についてでも良いし、他の意見を聞きながら提案などがあれば、自由討議の形で進めていきたい。

布施副委員長　野藤委員、漁業で半農半漁と書いているが、禁漁期間はいつからいつまでか。

野藤委員　あれはアワビやサザエ、ワカメなどの第一種共同漁業権に限った話。

それは漁協組合員でないと駄目となっている。私がやっているような魚釣りは夜明け前からとか、お昼頃とか、日中の仕事の時間以外でできるのがすごく魅力的。その時間帯に行って短時間で時合できるのが面白い。

農業も一緒だと思うが、楽しみを伝えられるように先人がいるとか、例えば本物の味を伝えられること、伝えていって半農半Ｘで他のものでもある程度収入を補いながらそれをやっていける仕組みがあれば良い。

布施副委員長　私が聞きたかったのは、農業は今やっている人はできる。半Ｘの部分、これは漁業であっても林業であっても農業をしながら漁業ができるものか。そのシステムづくりは、個人で漁船を買ってではなく、半漁の場合は雇い主のところに、農業をやらない時期に行って漁業ができるかどうか。そこを聞きたかった。個人では楽しんでできるかもしれないが。

野藤委員　三隅あたりが結構、半農半漁である。福浦や須津は。半農といっても大きな規模ではないけど。他のものでやるなら、例えば一人で漁業をしようという方は、まず朝だけ定置網をやって、いくらかもらいながら自分の漁業をする。半勤め漁業、半自分漁業。

布施副委員長　半漁半Ｘの半Ｘの部分に農業を持ってくることもできるか。

野藤委員　半農半Ｘというのは、空いている時間があってのことであり、同じ時間に被ると半農半Ｘはできない。昼間仕事をして真夜中の暗いうちに農作業をしろというのは難しいので、いまの半農半漁は土日に農業をやるということだろう。そういう仕組みがあれば。土日だけでできる農業。日がおちて２時間くらいの間にちょっと水稲の世話ができるとか、そういう仕組みがあれば半農半Ｘはできると思う。

布施副委員長　それが解決に結びつくとは思わないが。

野藤委員　モデルケースはできると思う。自分でできそう、やってみたいと思うかたが出るのではないか。

布施副委員長　農業は１年サイクル。2、3年サイクルのものもあるが。林業と組み合わせると林業は50年サイクルで、間伐など苦労して出荷するまで50年。その部分の取組を長期で見ると、3つくらい組み合わせられると思う。一番やりやすいのは川上委員が言われたように、企業があって主に働くものがあって、半農の部分を主から外れた部分で農業に携わるものが来てもらえば、後継者もできるし生計も立てられるから、農業は趣味でなくても土日などで少し広がりができていくのではないか、という思いがあって半農半Ｘの部分があるのだが、なかなか企業は来ない。浜田の基幹産業である漁業を半Ｘの部分に当てはめてやることができないかと。野藤委員は漁業をやっておられるから、マッチングできないかという思いで聞いた。

野藤委員　それ自体が儲かるというのは、もう外さないと。

布施副委員長　外さないとどちらもなかなか難しい。

もう１つ、ふるさと応援隊、農業に対してもいろいろおられると思うが、浜田の実績について報告はあったのか。

布施副委員長　新規就農者は研修制度があったりして。

古森局長　ふるさと農業研修生の部分だろうか。1月22日の会議資料で、21年度から30年度までの資料がついている。

布施副委員長　研修生は45人で、途中でやめた人がいて、40名は修了者がいて、根づいたのは。

古森局長　半農半Ｘは７名。

布施副委員長　最近は、半農半Ｘは少ない。柳楽委員が言ったのは、この研修制度をもっと増やせということだろう。

柳楽委員　増やす必要があると思うし、折角研修を受けられても、修了後に続けられなかったりすることもあるので、どういった点が問題なのかをきちんと分かっておかないといけない。

布施副委員長　研修制度は月15万円の支給である。途中でやめても浜田市の場合は返却を求めないことになっている。この15万円は他市と比べてある程度高かった。果たしてこの15万円が魅力なのか、農業が魅力なのかは分からない。

野藤委員　農業研修生はどこの子も自営するのだろうか。どこへ入るのだろう。

布施副委員長　弥栄と、三隅もいなかったか。

飛野委員　いた。卒業したからそれで切れてしまった。

布施副委員長　帰ったのか。

飛野委員　修了後はフリーなので。

野藤委員　45人研修生がいて、結局少ない。

飛野委員　半農半Ｘはブームが去った。

永見委員　研修後、独立してやっているところもある。

田畑委員長　ここで暫時休憩する。

〔　10時 54分　休憩　〕
〔　10時 57分　再開　〕

田畑委員長　委員会を再開する。自由討議の続きだが、ご意見があれば。

布施副委員長　研修制度があるが、まだ充実していただき、人数を募集してもらう。最近の実績を見ると非常に少ないので、アプローチをかけることが必要ではないかと思う。

半農半Ｘは５年以上前に県大で弥栄の方が実例を講演されたが、いつの間にかブームが終わって違う方向性になった感じがした。また新たに、半農半Ｘのシステムづくりを再度見直してやったらどうかと思う。

飛野委員　先ほど農林業支援センターの話をしたが、これは突き上げるのではなく、あれは県もメンバーに入っている、県・市・JA。ブームが去ったのではなく薄れてきた、ここには何があるかを、折角支援センターの中に三つが揃っているのだから、そこで課題を見つけてこられるはず。それを通じて私らも一緒に勉強したり研究したりする中で、半農半Ｘはます

ます必要になってきている。なぜ下火になっているのか、要因について支援センター等を通じて検証して、実施する必要がある。

川上委員　昔から農業をやっている方は、農業が忙しい時以外はほとんど建設業のお手伝い。現在もそういう状況は続いている。しかし本来は農業をやりながら建設業なのだろうが、その建設業自体が衰退しているから、農業をやるための時間が取れなくなるのが事実。建設業ではなく違う仕事に行っているから。建設業そのものを縮小していって予算化しないから建設をやめる、人が要らないから出ていく、農業ができなくなるという状況が事実だと思う。目を向けるところは、人間を残すためには何をしなければならないか。昔のように再度、建設業や公共事業に目を向け直すか。半農半Ｘも良いが、地域に残ることを考えると公共事業を見直す必要があるのではないか。それを考えても良い。

田畑委員長　確かに川上委員の言われるように、投資的経費が20億円まで下がってくると、浜田市内の建設業はほとんど廃業せざるを得ない。建設業に勤務しながら農業をしている方もおられるが、建設業が廃業となると農業どころではなくなってくる。投資的経費そのものの問題が、中山間地域に住んでおられる、除雪からして大変重要な問題だろう。

川上委員　既に、ある１社は４月に入って従業員を全部解雇した。仕事がないから。次の会社も見えている。そういう状況をきたしているということは、その方々は絶対に出ていく。すると農業が維持できなくなるのは目に見えている。そこまで影響を考えてやるべきで、投資的経費は必要だと思う。

柳楽委員　半農半Ｘの話で、弥栄に事例発表をされた方がいたが、今の段階でその方がどうなっているかは知っておいたほうが良いのかと思う。成功されたのか、それとも何等かの問題があって難しくなってしまっているのか、折角なので知っておいたほうが良い。浜田市内でも若い農業者もいらっしゃる。その人たちが現時点で儲かっているのか。年間500万円という話もよく聞くが、そこに至っている農業者がどの程度おられるか知っておきたい。

野藤委員　それは生産高で、経費を引かない売上高だろう。

柳楽委員　あるのはあると思うが、割合的に浜田で専業農家をされているかたのうち、どの程度が500万円以上の売上があるのか。

布施副委員長　佐々木農園は分かる、パッと見て宇津井や佐野はある。農業を専門にしているところが。しかし私が知っているところで500万円いっている例はない。肥料代と生計がやっと保たれるだけで、作ったものはJAなり自分で市場へ出して、捌ければ良いということは最近聞いた。ただ、理想は500万円だが、とてもではないが難しいと言われた。

三階町、長見、有福、上府も聞かない。あるとすれば美川。

野藤委員　扇原茶園くらいではないか。

川上委員　１回調べてみる価値はある。

布施副委員長　儲かるのはやはり金城だったり旭だったりして、果実の部分が結構多い。

柳楽委員　どの作物で収益が上がっているのかとか、例えば500万円以上の方がどれくらい、300万円くらいの方がどのくらいといったところを分かっておくことは必要かと思う。

古森局長　法人か個人か分からない。

田畑委員長　三隅では、平木農園くらいだと思う。

布施副委員長　きんさい市場に、朝、自分が作ったものを持ってくる個人農家がおられる。これは当然ながら500万円はいかない。自分が食べる以上に残った部分を持ってこられる。そういう方がおられる。JA に対してキャベツを年間これだけ作るので取ってくれと契約している農家には、500万円に近い人がおられる。そういう例がどのくらいあるかを調べると、多分出てくる。それを調べてこちらに近づけるように指導する。

柳楽委員　例えば500万円以上を維持しておられる方が、どういったやり方をしておられるかも、参考にはなると思う。同じようにやっておられても、こちらは収益が上がっているが、こちらはなかなかということもあったりするのかと思うので、そういう比較というか。

野藤委員　生産効率と人件費の差ではないのか。

柳楽委員　農協が指導などされるのだろうが。

布施副委員長　私が思うに、水稲だけでは儲からないのでハウスもやるところは、年間で安定的な生産ができて、収入も安定する。個人農家でもある程度売り上げは上がる。一般個人農家、露地野菜などをやっているところは、今のようにやりたいのだがそこまでやる必要もないと考えている方がおられて、農協に出すのが精一杯という。調べることはできると思う。広げていくかどうか、本業にするところまで気持ちが追いついてない方が結構ある。高齢化もあるのだろう。若者に事例を示して、これをやれば農業で食べていけるからどうかとやった時には、そのきっかけづくりをどこに持っていくか。研修制度できっかけづくりをするのか。ふるさと応援隊を事例として呼んで、都会からのＩターンを呼んでやらせるのか。きっかけづくりとしてはいけると思う。

野藤委員　例えば有機で生産者がみな固まって、直接スーパーかどこかに下ろしている中に入れてもらうとか。そういうグループに入って単価を上げていくとか。前、旭でもスプレー薔薇の関係があったのだが、単価が下がったのか売り先が下がったのかわからないが、いま結構少なくなっている。

川上委員　もう辞められている。

野藤委員　あの辺りは将来性があると思っていたのだが、その辺の原因とか。

川上委員　金城でどんどん増えているのはブドウだ。個人で増えている。

柳楽委員　梨は。

上野委員　梨も駄目だ。特産を取り消すくらい。

布施副委員長	桃は。
上野委員	桃も駄目。高齢者は植え替えができなくて。
川上委員	いまはＵターンでやるといったらブドウくらい。
布施副委員長	原木椎茸はどうか。
川上委員	原木椎茸やっているが量が少ない。
野藤委員	原木は生える時期がある。
川上委員	しかも原木は意外と高い。この地域ではなかなか取れないので買ってくるのだが、それが高い。１本300円、400円。
野藤委員	この辺の木ではないのか。
川上委員	違う。
上野委員	あるにはあるが、昔のように手入れをしないから硬くなって生えが悪い。毎回炭を焼くように切れば良いのだが。
川上委員	商売でやるなら何千本を用意しなければならない。
田畑委員長	自由討議ということでいろいろな意見が出たが、いかがまとめようか。
野藤委員	収穫時期がずれるようなものがあれば、それを組み合わせてやるのが、半農半Ｘの変形だと思う。ある程度、モデルケースを示さないと。
永見委員	半農半Ｘで収穫なり農作業の時期がずれるというのが、金城のピオーネは理にかなっている。だいたい金城で水稲の植え付けが５月のゴールデンウィーク時期で、ピオーネなりシャインマスカットのジベレリン処理をするのが６月末から７月の頭。処理をしたら一気に果実が大きくなる。ただ、秋の収穫時期が水稲とブドウが重なる。そこに応援がいる。それ以外は半農半Ｘで取組める作物。
川上委員	プラスして原木椎茸を入れれば良い。
布施副委員長	柳楽委員が言われたように、事例の実績などをいろいろ出してもらって、永見委員や川上委員が言われたような事例を被せてみて、モデル的なものを作る。
田畑委員長	モデルを作って、それでまた皆と協議するということで。
川上委員	１回藤若農産に聞いてみようか。ピオーネも、水稲も、椎茸もやっている。
布施副委員長	協働でハウスを持ってできるのか。
永見委員	あれは藤若農産だけ。
布施副委員長	事例は藤若農産があるだろうが、そこはそれで良いが、他の所がやるためには、ハウスが要るとなると個人ではなかなか作れないから、やりたい人が４、５軒集まって１つのハウスを作って共同でブドウ栽培に取り組む。
永見委員	ブドウ用ハウスは１反あたり１千万円かかる。その辺りはやはり行政の支援がないとなかなかできない。
布施副委員長	そこなのだ。やりたいけど出来ないからそのまま放っておくのではなく、そういうことをやろうと。お金がかかる部分は、上野委員は嫌いかもしれないが補助金を頼って、共同でできるハウスをやる。

田畑委員長　取りまとめをしなければいけない。すべてを提言に結び付けることは難しいので、半農半Ｘに絞るなら、Ｘの部分を原木椎茸にするのか、ピオーネにするのか、何か提案になるようなものを２つか３つに絞って、それを更に絞り込むことができるかどうかという方向で持っていきたいと思うのだが。いかがまとめれば良いか。

野藤委員　ふるさと農業研修生事業の拡大を進めるために、半農半Ｘのモデルのようなものを。２つ３つと言われたがいくらあっても良いと思う。

田畑委員長　相当あるからいくらかにはまとめなければならない。

野藤委員　分類していってまとめれば取り組みやすい。育てる組織がないと、半農半Ｘがあるから取組んでみろでは難しいので、組織もきちんとしておかないと。それが行政になるのかJAになるのか地域なのかは分からないが。収穫時期がずらせるようなものを組み合わせて、なるべく収益が出るようなものや、将来性のあるようなものをやっていく。

川上委員　一度確認に行ってみれば良い。

永見委員　そう。藤若農産で話を聞いて、研修期間を過ぎて独立してやっているのが二人いるので、そのことも聞けばよい。

川上委員　それを確認した方が良い。

布施副委員長　モデル事業を示してあげるのが良い。

川上委員　それが一番良い。

田畑委員長　現地へ行って目で見て、何が必要なのか考えればよい。

野藤委員　国県の支援施策があれば、それを補完するような施策を入れれば。

布施副委員長　それでまとめよう。

川上委員　現地を見せてもらって、何がどうなっているか確認して、野藤委員が言われたように、補完する何かを考えるのが一番良い。

田畑委員長　確かに、特に農業水路ため池の問題で、国が55％出して、県が15％出して、浜田市は他所を見ている。30％を受益者に負担を求めないといけない。水路で３割となると大変な金額になるから、やめたほうが良いという話になる。

川上委員　だからしていない。

永見委員　ため池の自己負担は1％ではなかったか。

田畑委員長　前はそうだった。よし、現地を見て確認するということにしてよろしいか。その後にまとめて、それを補完する仕組みづくりについて委員の皆でまた話し合いをするということでよろしいか。

（　「はい」という声あり　）

川上委員　見に行く前に、今日出てきた話を一度まとめてもらえないか。それを持っていって見たら一番良い。粗方。大きく、どこを見るという目的を持って行こう。

田畑委員長　相手方には、いつ頃。

川上委員　いつでも良いのでは。電話連絡する。

永見委員　今は田植えシーズンだから、避けてやったほうが良いと思う。５月の

半ば過ぎでないと。

布施副委員長　それまでに今日出た問題を集約しておいて、何を聞くべきか。

川上委員　送ってもらって聞くべきことを書いてもらって。

田畑委員長　聞くべきことは委員ごとに考え方は違うと思うので、このまとめはタブレットに送ってもらうようにしておく。

今、１か月に１回のペースでやってきているが、今日もう少し進むかと思えば（1）で昼近くまで過ぎたので、5 月連休明け頃に（5）、（6）、（7）と進めていきたい。新型コロナウイルスの問題があるので、5 月中に２回できるかどうかは不透明なので、また局長と副委員長と相談しながら決めていきたい。

川上委員　見に行くという話だが、いつ頃が良いか一応打診してみる。それからにしてもらえないか。

田畑委員長　はい。それまでにまとめたものをタブレットに送っていただくということで、よろしいか。

（　「はい」という声あり　）

経過を見て確認した上で、仕組みを補完する上において何が必要なのかは、現地を見て進めていきたいと思うのだがいかがか。

（　「異議なし」という声あり　）

では、今日のところはもう少し進めたかったのだがいろいろな意見が出て時間がかかったので、これくらいにしておきたい。

2. その他

田畑委員長　次回の開催についてだが、昨日、正副議長のほうで６月議会の対応等について連休明けに協議する、方向性を示すと言われているので、方向性が示された後に開催日を決めたい。その時には局長と協議した上で、皆にメールでご連絡したい。よろしいか。

（　「はい」という声あり　）

布施副委員長　現地視察は別か。

田畑委員長　現地視察については川上委員に日程調整をしていただく。

川上委員　連絡を入れる。

田畑委員長　またメールで、日時と場所を。

古森局長　ご相談いただいた日にちで、欠席者がいても決行ということか。

（　「はい」という声あり　）

田畑委員長　ということで、現地視察については川上委員に連絡していただき、局長から委員の皆にメールで日程を送信する。

次回は先ほど言ったように、正副議長から方向性が示されてから行うということで、今日の時点では言えないので、示された後にまた局長と協議して皆にご連絡する。よろしいか。

（　「はい」という声あり　）

以上で本日の委員会を終了する。

（閉　議　11　時　27　分）

浜田市議会委員会条例第65条第１項の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会　委員長　田　畑　敬　二　㊞